

農業体験 報告

～ゆずの収穫 in 矢祭～

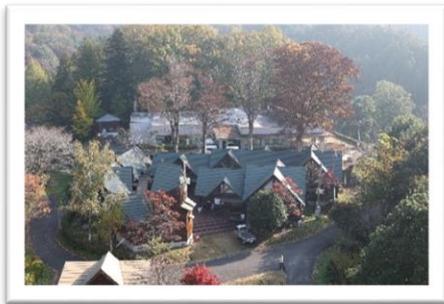
2023(令和5)年 11月 3日(金)・4日(土)

2023年11月3日・4日、今年度3回目にして最後となる農業体験が、福島県は矢祭町で開催されました。今回の活動のテーマは『『ゆず、どうする?』～ゆずから地域振興策を考えよう～』。当日は朝8時に横浜駅に集合し、本来3時間の道のりを渋滞にはまりつつ、バスで5時間半かけて矢祭町に到着しました。

1日目、わたしたちはまず地元の農家「農業法人でんぱた」の鈴木正美(すずき まさみ)さん、鈴木日香里(すずき ひかり)さんのゆず畑を訪れ、少々早いゆずの収穫を行いました。次にわたしたちは、隣接する茨城県北部のりんご農家「豊田園」さんを訪れ、大子町の名産であるりんごの収穫を行いました。かくして屋外での活動を終えて矢祭町へ戻り、宿舎「リフレッシュふるさとランド」に移動し入浴や炊事を済ませ、収穫したゆずで商品開発に取り組みました。「矢祭町振興のためにイチから『新商品』を生み出す」という難題に挑戦し、生徒がそれぞれにアイデアを考えました。

2日目は商品開発の実習。昨晚悩みぬいて生まれたアイデアを形にするため、クッキーを作りたいかった班は泡だて器が使えないとわかると炊き込みご飯に方針を変えるなど、問題を柔軟に乗り越えて試行錯誤した結果、さまざまな「新商品案」が誕生。炊き込みご飯のほか、パンケーキやジュースに芳香剤などが生まれ、開発過程を互いに PR しました。新商品を試し合った生徒はもちろん、正美さんたち生産者からも「自分たちでは思いつかないゆずの使い道を考えてくれた」と感心の声があがりました。

こうして幕を閉じた今年度最後の農業体験、作物の収穫・加工・企画という取り組みは、わたしたちの視野を広げ、商品開発の過程は誇らしい経験となりました。今回生まれた新商品案たちは、12月26日に行う「横総大感謝祭」で販売することができれば、六次産業体験が大成すると考えています。



[感想]

- ・商品開発では独創性や柔軟性が試された。難しかったけれど、最終的に楽しめてよかった。
- ・夏の猛暑でカメムシが大発生。自然の多い矢祭は影響がもろに出ていた…

お世話になった皆様、本当にありがとうございました！